



命を守る立地適正化計画

洪水と干拓で出来た岡山

■八潮市の下水陥没事故の教訓 八潮市の陥没事故は、今後の都市のインフラの保守について、重大な問題を提起している。戦後日本は、人口増加に合わせて、道路建設や住宅建設を際限なく拡大してきたが、特に1980年代以降の本格的自動車社会の進展で、市街地の際限ない拡大が続いてきた。日本の戦後復興は、鉄道とバスで人々を農村から都市に集中させて達成された。しかしモータリゼーションの結果、鉄道中心で構成された都市は、どんどん希薄化してきた。下水道の整備も、衛生的な都市をめざして、先進都市の必須条件として、整備率を競ってきたが、整備された下水や道路・橋梁の保守は限界に来ている。

■洪水と干拓の岡山平野 岡山平野のほとんどは、弥生時代以来の洪水で出来ている。岡大病院のある鹿田遺跡は海辺の集落で、弥生後期(1800年前)には波止場もあったようだ。氾濫原は弥生後期には一気に広がり、操山の上には海を見下ろす古墳が出来た。その後遠浅の海が広がり、宇喜多時代(400年前)から池田時代にかけて大規模な干拓が行われ、岡山の経済力の基盤となった。干拓は明治・昭和まで続き、広大な干拓地は高度経済成長下では一部が住宅地化した。しかし干拓地の広い岡山市の場合、北海道全体よりも多い 9700 の橋梁があるが、もはやこれも維持するのは不



7 岡山平野南部の地形変化

「吉備の弥生時代」吉備人出版より

完

可能になっている。50 戸連たん制度で住宅開発を繰り返した結果、主要道から迷路のような取り付け道路の先に住宅が沢山出来た。(百万都市広島では、平野が少なく、山を削って土地を造成した) そうした土地は周囲より低く、浸水の危険性が相対的に高い。(真備や平島の水害の原因もここにある。広島では崖崩れと鉄砲水に襲われた) また住宅は水路に隣接して作るから、夜間の用水路転落事故は日本一多い。50 戸連単の廃止は、これ以上の開発で、道路・水道・電気・道路などのインフラ整備費用の拡大を止めるものである。

■怖い南海地震の液状化 もし南海地震が起これば、干拓地はほとんど江戸時代以降の開発地であるから、まだ十分に地盤が固まっておらず、震度 6 となれば、広範囲に液状化がおこるだろう。1946 年の昭和南海地震では、干拓地で 50 人も亡くなっていることを、誰も知らない。津波も来るだろうが、それよりも乱開発された 50 戸連たん地域は液状化に注意が必要だ。(能登半島地震では、少し離れた新潟市西区では液状化で大変だった) ハザードマップを意識しない開発は、もうやめよう。不動産開発業者は、命を守ることになるのだから、もっと地学と地理を勉強しないとイケない。本当は不動産関係の資格試験に、地理地学の問題を沢山入れないと駄目だ。(今や洪水、津波、土砂崩れのハザードマップが整備されてきたのは喜ばしい)

■我々の命を守るための立地適正化計画 国の「コンパクトシティ」政策を先取りしたのが、岡山商工会議所の都心 1km スクエア構想だ。岡山駅を中心にした 1km スクエアに路面電車を環状化させ、表町商店街を復活させ、一方で平野が広すぎる岡山の、これ以上の乱開発をとどめようというもの。コンパクトシティでは、公共交通中心のまちづくりを行い、土地利用は立地適正化計画で規制して、既に下水などの整備された地域への居住を誘導するものだ。そしてこれは結果的に住民の命を守ることになる。だが、こうした百年の計は、多くの日々の生活に追われる市民には、見えにくいもの。行政はこういう方針を「丁寧に説明」しようとするが、これは「説得」していかないといけないものである。なぜなら自分の土地を開発したい人にとって、ある種の私有財産権の制限になるのも事実だから、説明だけで無く、説得が必要だ。

■都市経営と財源確保 岡山の場合、都心に集中投資したおかげで、また岡山駅の拠点性も生きて、イオンモールが進出するなどし、都心の地価が日本一上昇し、結果として固定資産税の税収が 501 億円から 575 億円に増えた。(毎年増える、ある意味恒久財源) 地方交付税交付団体の岡山市では、固定資産税が増えても交付税が減らされるから、純増ではないものの、確実に財政力がついていくわけだ。今後アメニティの高いアリーナやサッカースタジアムなどの整備も必要だが、これらは都市経営としては所得税や事業所税などの税収も増えるので、他の政策に回せる財源も出てくる。つまり福祉や教育に回せる財源を作ることにもなる。立地適正化計画の不利益を被る人々にも、補填する考え方も必要だろう。

これ以上、道路や下水を作っても維持できない以上、インフラの新設を保守に回して、いま居る人々の生活と命を守る方が、全体には得するということになる。さてさて問題は「説得」できる人材がいるのかな。

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索

